



## ●●●●●●●● S-KYT研修事業を実施して ●●●●●●●●

東京都青梅市消防団

### 1 はじめに

青梅市は、東京都の西部に位置し、市のほぼ中央には、水量豊かな多摩川が東西に流れています。

上流部となる御岳溪谷は、日本名水百選に指定される景勝地として有名であるほか、カヌーやボルダリング（岩登り）などといったスポーツのメッカとしても全国に知られており、年間を通し多くの人々に親しまれています。

御岳溪谷の南西部にある御岳山は、古くから霊山として人々から崇められ、山頂にある武蔵御嶽神社は、山岳信仰のシンボルとして知られており、参拝客のほか多くの登山客が訪れます。

また、青梅市は梅の里としても有名であり、多摩川の南側、4 kmに渡って広がる吉野梅郷には、山の斜面を利用した約4.5haの敷地に約120品種1,500本もの梅を有し、関東屈指の規模を誇る「梅の公園」があり、開花時期には多くの観光客で賑わいます。

その他にも、毎年2月には青梅マラソンが開催され、全国から1万5千人を超えるランナーが集まり、早春の青梅路を彩ります。

### 2 青梅市消防団の沿革

昭和26年4月1日、1町2村の合併による市制施行とともに「青梅市連合消防団」が発足し、その後条例等が整備され、翌27年6月に「青梅市消防団」が誕生いたしました。

昭和30年4月には、さらに4村が合併して、青梅市は現在の姿となり、青梅市消防団の活動区域は大きく広がりました。

現在、青梅市消防団は、8個分団37部、団員数710人（条例定数）の団員によって組織され、14万市民の安心・安全を守るため、日夜その活動に当たっています。

### 3 S-KYT研修事業を実施した経緯

青梅市消防団では、日頃から全団員に対して、活動時における安全管理を徹底するよう指導を行っていましたが、残念なことに、主にポンプ操法訓練を原因とした公務災害が毎年数件発生しておりました。

市民の安心・安全を守るには、活動する団員自身の安全管理が最優先であるとの観点から、団長を筆頭とした団本部では、より一層の安全管理対策が必要だとの認識に立ち、具体的な対応策を検討していました。

そのような中、『広報消防基金』に掲載されていた各地の消防団がS-KYT研修事業に取り組んでいるという記事を読み「青梅市消防団でも実施してみてもどうか」と団本部に対し提案したところ、その研修内容がまさに求められている内容であるとの意見が上がり、青梅市消防団においてS-KYT研修を実施する運びとなりました。

#### 4 S-KYT研修を実施して

平成23年5月15日（日）午前9時30分から、活動現場で団員の指揮を司る正副分団長以下副部長（部長の補佐を行う者、階級は班長）までの98人を2会場に分け、各会場それぞれ9班（1班5～6名編成）に分かれた後、4時間にわたる「S-KYT研修」が始まりました。

参加団員に対しては、あらかじめ研修内容について説明を行っていたものの、皆初めて行う

研修であり、また、どの班も他分団との混成で編成したため、最初のうちはほとんどの参加者が不安を感じていたようでした。

しかし、研修冒頭に自己紹介を行ったことによって緊張もほぐれ、その後は和やかな雰囲気の中で研修を行うことができました。

研修内容は、テキストのほか、DVDを用いた講義内容であったため、非常に分かりやすく、どの団員も真剣な眼差しで受講していました。

特に研修前半に行った「指差し呼称・指差し唱和・タッチ&コール」と、後半に実施した「S-KYT基礎4ラウンド法」は、どの班も和気あいあいとした雰囲気の中、熱心に取り組んでいました。

研修は4時間という長めのものでしたが、参加したどの団員も、最後まで楽しんで参加していたのが、非常に印象的でした。



講義風景



危険をみんなで考える

研修終了後に提出されたアンケートを見ると、ほとんどの者に共通して「今後の活動に役立てたい」という積極的な意見が書かれており、今後の安全管理を図っていく上で、大いに役立つ

研修結果となりました。

## 5 今後の取り組みについて

常に危険と隣り合わせとなる消防団活動にお



指差し唱和



タッチアンドコール

いて、安全確保は最重要課題です。今回の研修は、その点について参加した団員一人ひとりに対し、改めて考えさせるものとなりました。

今回が初めての試みであったS-KYT研修です

が、今後も定期的に行われ、全ての団員に危険予知の大切さを習得させ、「公務災害ゼロ」を目指して活動していきたいと思っています。



発表